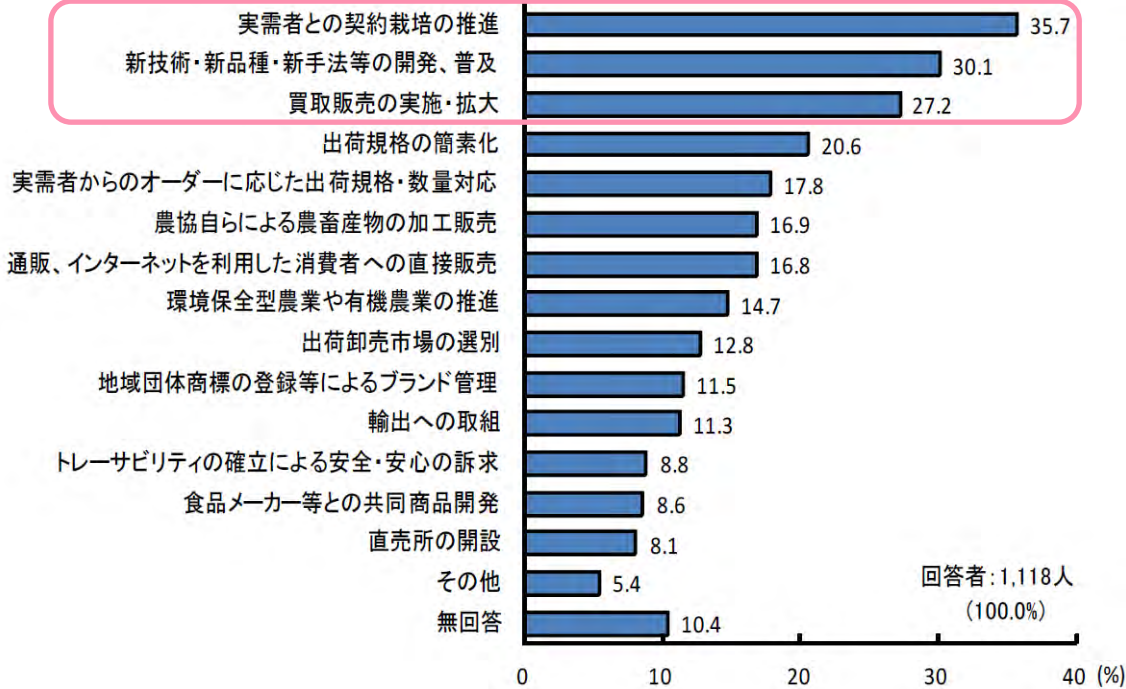


【④JAの事業に関する農業者へのアンケート（25年）】

「質問：農協の販売事業に求めること」⇒ **販売力の強化79.4%**

「質問：所得向上のため、農協の販売事業は何をすべきか」

⇒ **特に、実需との契約・新技術の提供・買取販売の拡大を要望**



資料：農水省「農協の経済事業に関する意識・意向調査結果（25年12月）」（サンプル1118人）

【⑤全農とキューピーによる合併会社の設立】



【⑤バリューチェーン構築に向けた経済界との連携等】

ア. 経済界とJAグループの連携・協力の促進に向け
検討組織を設置

⇒ 経済界と農業界の相互理解の促進と共通認識の構築のため、具体的取り組みの起点となるプラットフォームとして、経団連とJAグループの実務代表者による「経済界と農業界の連携強化WG」を設置。
春、プランを取りまとめ予定。

イ. 農林中金・全農・大手メガバンクによる「食と農の競争力強化に向けた研究会」の設立

⇒ 今年8月に、農産物の高付加価値化と食品産業との連携によるバリューチェーンの構築に向け、具体的な事業展開をめざす研究会を設置。

ウ. 食品関連企業との連携拡大

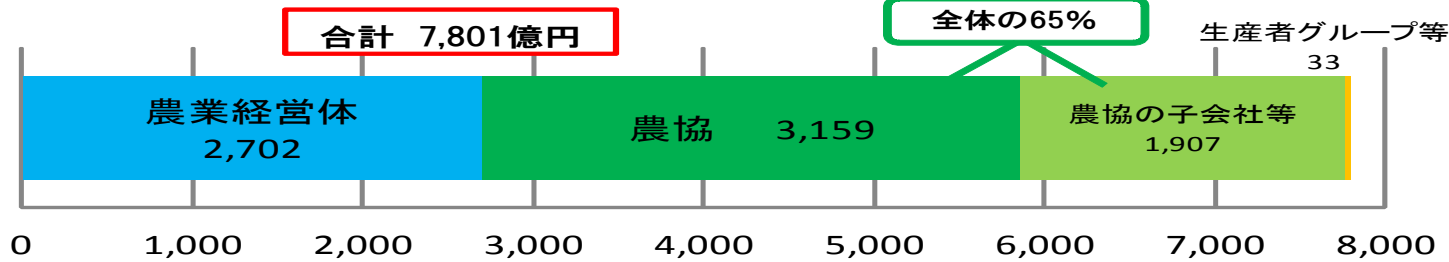
⇒ 全農の出資基準の弾力化に基づき、食品関連企業との提携を一層拡大する。
その1号案件として、キューピー(株)と全農による合弁会社「グリーンメッセージ(株)」を設立し、加工・業務用需要への対応を強化。

エ. JA・6次化ファンドを活用した取組みの展開

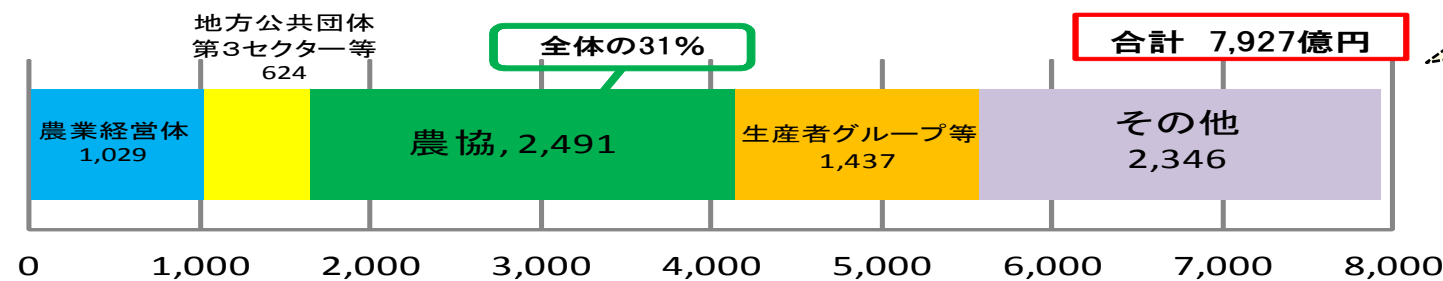
⇒ 6次化ファンド法に基づく、最大規模(100億円)のサブファンドを設立。
昨年、1号案件として、千葉の植物工場の取り組みを支援を決定。

【⑥農産物加工および農産物直売所の年間総販売金額（23年度）】

＜農産物の加工の年間販売金額＞ 単位：億円



＜農産物直売所の販売金額＞ 単位：億円



J Aのファーマーズ・マーケット、直売所の店舗数
約2,300ヶ所（24年度）

※資料：農林水産省「6次産業化総合調査統計」

【⑦全農による農畜産物の輸出実績（24年度）】

- 全農グループの農畜産物の輸出額：36億円
⇒日本の生鮮品の輸出額155億円のうち約20%
- 〔内訳〕

米	1.7億円	青果物	18.8億円	食肉	7.9億円
花き	1.0億円	甘しょでん粉	0.6億円		
- 海外常設売り場：62店舗（前年度比＋3）
- ※ 食肉の輸出拡大に向け、海外に直営の和牛レストランを展開中
⇒第1号店は香港。4月には米国・ピバリーヒルズにも創作和食レストランを開店。
- ※ 農畜産物の輸出拡大に向け、米国、シンガポール、ロンドンに拠点を設置

《購買事業関係》

【①低コスト資材の開発・普及の取組み】

《耕種》

低コスト肥料	肥料代が旧銘柄の3割カット
農薬の大型規格	包装を大きくして価格を抑える
超低コストハウス	基礎工法の簡素化(開発中)
低コスト段ボール	製紙メーカーと共同開発

《畜産》

鶏の飼料開発	卵殻強化・卵重抑制・鶏糞低減効果のある飼料
豚の飼料開発	消臭効果・環境保全型・リキッドタイプの飼料
養豚生産管理ソフトの普及	
酪農の最適給餌設計システムの普及	

【②新技術の開発・普及の取組み】

《耕種》

直播する水稻種子を鉄コーティング、浮苗・鳥害を防止
乾田不耕起直播栽培、育苗・耕起の手間をなくす
FOEAS ⇒ 地下水位を制御し、田畑輪換を可能とする技術
生分解性マルチの使用で、耕運機による鋤き込みが可能

《畜産》

鶏 ⇒ サルモネラ対策飼料の開発、高機能IBワクチン
豚 ⇒ 高増体雄系の品種開発、多産雌系の品種開発 ⇒ 高活性化豚の人口授精用精液の開発
牛 ⇒ チルド受精卵・精液の開発
共通 ⇒ 予防衛生技術の確立 ⇒ 高度な品質・安全性検査体制の確立